

☆☆人と自然にやさしいまちづくりを！

号外 2021年11月号



中西とも子の議会報告

●発行：中西とも子と箕面から変えようネット！ 〒562-0001 箕面市箕面 2-1-34

☎&📠： 072-724-8351 ✉️minonet-tomoko@nifty.com



「11.7 箕面市立病院のこれからを考える集い VOL2」を開催しました

現役世代、高齢者、障がい者（児）のご家族など多様な参加をいただきました。

VOL1の集いでは、川西市議の谷 正充さんから、川西市立病院が民営化される経緯や課題についてお話していただきました。

公立病院のあり方や存続を求めて、市民運動が活発に展開されたことや、指定管理者制度の導入が決まり、病院スタッフの若手層が大量に辞めてしまったこと、指定管理者という民間に病院事業の運営が移ったことで、運営状況が見えにくくなってしまったことなど、箕面でも教訓にしなければならないことを、参加者のみなさんと共有しました。

VOL2の集いでは、泉大津市議の高橋 登さんを迎え、箕面市立病院との比較や課題をお聞きし、みんなで意見交換しました。

泉大津市立病院は、病床数230床（箕面市は317床）の中型病院です。2010年に地方公営企業法の全部適用に移行。（箕面市は2009年）また、他市のように市の一般会計から政策的繰り入れをおこなってきましたが、それでも赤字が膨れ上がり、3部門の診療科（産科、周産期、小児医療）は直営とし、残りの診療科を指

定管理者（民間）に委ねる、とのことでした。



●府内の地方公営企業法全部適用の自治体の一般会計からの繰り入れ額(2019年度決算)

市立豊中病院	22億6189万2000円
市立池田病院	10億4012万5000円
箕面市立病院	3000万円
泉大津市立病院	9億1994万7000円
市立貝塚病院	9億円
市立ひらかた病院	15億6149万7000円
八尾市立病院	15億4094万6000円
市立柏原病院	8億2221万3000円



箕面市立病院の財政状況は、 市がいうほど悪くはない！？

VOL1の谷議員も、高橋議員も、箕面市の病院財政は悪くはなく、他市と同レベルの一般会計からの繰り入れを行えば、赤字にはならない、と指摘されました。

このことは、中西も議会で主張してきましたし、市の決算報告でも明らかにされています。

財政状況を示す指標である「経常収支比率」「医業収益対医業費用比率」「自己資本構成比率」「固定資産対長期資本比率」「流動比率」はいずれも基準内の数値です。

病院職員の削減、給与の減額や成果制度の導入は、 医療スタッフのモチベーション低下に。

箕面市立病院は、2015年度から一般会計からの繰り入れを行わず、独立採算制で運営してきました。上島市長は、赤字経営であるため、建替え移転後は、民営化も含めて検討すると宣言。今後9億円の赤字が試算されており、病院内でもプロジェクトチームが置かれ、改善策が検討されています。市長から職員数や給与費の削減を促された病院側は、経営改善策を労働組合に提示。収支改善策として、収益向上が期待できる診療科や患者に請求できる

加算金の強化、病院職員の給与減額や成果制度の導入による人件費の圧縮案が示されています。

公立病院の役割は、誰でも安心してかけられる医療・ 看護体制にある！

そもそも、市から他市並みの政策的繰り入れを行えばよいのに、民間病院のように、「儲からない診療科を削る、収益性の高い診療科を強化する」という考えは、公立病院の役割をはき違えているのではないのでしょうか。

例えば、重度障害児（者）のご家族からは、「産科と小児科が連携できるように」「民間病院では、入院時に付き添いを求められる」「高度医療は阪大病院にかけられるが、中度の場合はたらい回しにされる」など、公立病院の大切さについてご意見をいただきました。

また、建替える際には、現在特例で認められている回復期リハビリ病床50床は認めないという厚労省見解。今まで通りの病床を望むなら民営化や他病院との統廃合という選択を迫られます。今後の新病院整備審議会の動向にも注意が必要です。

中西とも子のほっと・サロン

11月19日(金)

午後2時~4時

無料

今回はオンラインで開始します

(2日前にまでにお申し込みください)

下記アドレスに送信をお願いします。

折り返しURLをお知らせします。

✉ minonet-tomoko@nifty.com